

第3学年 社会科 単元名「国際社会に生きる私たち」

2 国際社会が抱える課題

1. 目標

- 地域紛争とその背景、格差と貧困、資源エネルギー、地球環境問題など現在の国際社会が抱える様々な課題に対して意欲的に追究する。【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 国際社会が抱える諸課題について、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、関連性や今後のあり方などを適切に表現する。【社会的な思考・判断・表現】
- 国際社会が抱える諸課題についての資料から、学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取り、活用することができる。【資料活用の技能】
- 現在の国際社会が抱える様々な課題の解決のために経済的・技術的な協力が大切であることを理解する。【社会的事象についての知識・理解】

2. 指導計画（8時間扱い）

見通す	①時	主権国家を基本単位として構成される国際社会の特色や主権が及ぶ範囲を理解する。 単元を貫く課題を把握する。
	②時	国際連合が成立した経緯としくみ、働きを理解する。 平和維持活動（PKO）や専門機関など国連の活動を理解する。
	③時	EU、ASEANなど地域統合の利点について考える。
	④時	日本の国際貢献について、技術協力や経済援助の視点から考える。 NGOの国際支援活動を通して、方法や特徴を考える。
	⑤時	世界の地域紛争の現状を理解し、紛争が長引く原因や解決を妨げる課題について考える。
	⑥時	「人間の安全保障」という視点から食糧・水不足を中心に、世界が抱える深刻な問題の原因や背景について考える。
	⑦時	限りある資源と新しいエネルギーに関して、それぞれの現状と今後の課題を理解する。 国際問題についてのイメージマップを作成。
	⑧時	前時までに行っている、「国際支援」「地域紛争」「貧困問題」「環境問題」を取り上げ、より深刻で日本も考えていかなければならない問題について、大事な順に並べ替え上位2つのできることを考える。 単元を貫く課題に対してのまとめを行う。 他のグループの考えを聞き、レポート課題に向けた準備として、振り返りを行う。
振り返る		

←学び合いの例

3. 第⑧時について

- 目標 「国際支援」「地域紛争」「貧困問題」「環境問題」といった国際社会の諸課題について自らの立場で考察し、グループでの話し合い活動で活発に議論しようとする。

【関心・意欲・態度】

日本が世界のために取り組むべきことを、他者の意見を取り入れながら考え、表現をする。

【思考・判断・表現】

活動① 前時までの復習をスライドで確認する。

(一問一答形式)

活動② 本時の学習活動と課題の確認をする。

「日本が世界のために取り組むべきことはどんなことか？」

活動③ 見通しをたてる。「日本にはどんな取り組みができそうか。」

T：日本が世界のために取り組むべきことは何でしょう。プリントの四角の中に書いてみましょう。

活動④ 前時までに行っている、「国際支援」「地域紛争」「貧困問題」「環境問題」を取り上げ、より深刻で日本も考えていかなければならない問題について、大事な順に並べ替え上位2つのできることを考える。【個人での考察の時間】

T：より深刻で考えていかなければならない順に並べ替えましょう。
根拠があれば、どういう順でもいいです。

活動⑤ 個人での考察をもとに、4人グループで、個人の意見をもとに大事な順に並び替え、ホワイトボードに班の意見としてまとめる。上位の意見に対して、日本ができることを考える。【グループでの考察】

T：4人グループで自分の意見を言い、話し合ってください。

S：命にかかわる紛争が一番だと思う。

S：悩む。全部大事なんだけど。

S：急に環境とかは解決できないよね。環境がダメだと、国がなくなるよね。

活動⑥ 他の班の意見に対する質疑・応答をする。

T：環境が多いですね。代表で班ごとに発表してください。

S：地域紛争 紛争が起きるから、難民が増えている。

S：国際支援 私達にもできることだから。

活動⑦ 他の班の意見を元に、自分の考えをもう一度考え直す。【個人での考察の時間】

T：他の班の意見を聞いた上で、もう一度考えて並び替えてください。

活動⑧ 本時の振り返りを行う。

T：日本が世界のために取り組むべき事は何でしょう。

(生徒は記入)

4. 学び合いの例について

【活動⑤】：学習形態の工夫（小グループ・学級全体）

4人グループでの話し合い活動を通して、生徒全員が主体的に学習できるようにする。

(手だて)

1. 自分の考えを持たせる

イメージマップを作り、「国際支援」「地域紛争」「貧困問題」「環境問題」について前時までの考えを整理させ、自分の考えを持たせる。

国際社会の諸問題について自らの立場で考察し、グループでの話し合い活動に参加させる。





2. 思考するために必要な知識

地域・日本・世界の様々な分野の統計資料等を提示しておき、根拠を資料から選び貼り付けられるようにしておく。

3. 学び合いの活性化を図るための工夫

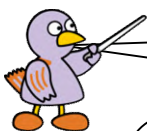
ホワイトボードを活用し生徒の積極的な話し合いへの参加を促す。

方法としては個人での考察をもとに、4人グループで、個人の意見をもとに大事な順に並び替え、ホワイトボードに班の意見としてまとめる。その上で上位の意見に対して、日本ができることを考える。

中学校第3学年 社会科

単元名 「国際社会に生きる私たち」

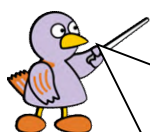
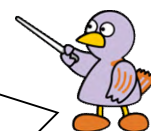
取組のワンポイントアドバイス



こうすればうまくいくよ！
実践にあたり工夫したところ・子供たちの変容の様子を教えます。

授業作りの中で大切にしたのは、「他者と相互にかかわること」です。前時までの内容から「自己との対話を重ね」、国際問題に関するイメージマップを作り、知識の整理を行い、クラス全体が話し合いに参加できる様な環境を整えました。話し合い活動の中で、順位付けを行いながらロードマップを作成し、思考の操作することで、社会科が得意でない生徒も主体的に活動ができました。

単元のまとめにレポート課題として「2020年の東京オリンピックで中学生の立場で世界の人々へ向けたメッセージを書くこと」を事前に提示しておき、「単元を貫く課題」とともに生徒に学習する動機付けを行いました。ナレーションのようなイメージで、単元の終了後にはレポート課題として評価の対象にもしました。今回は、事前の授業内容を理解した上での話し合いがメインであったため、いかに事前の授業の中で資料を理解し、自分の考えにつなげられるかが大切でした。そのため、特に単元の指導計画がまとめの授業につながるかを常に考えて構成を行いました。



本時の展開の中では、「教師があまり話さないこと」を心がけました。必要最低限の指示におさえ、生徒の発言、活動の時間を十分に確保しました。話し合いには、ホワイトボード、用語・資料カードを使用し、動かしやすく、話し合いに参加しやすい環境の工夫を行いました。また、「見通し」⇒「個人での考察」⇒「グループでの考察」⇒グループ・クラス全体での結果をもとにもう一度「個人での考察」⇒「振り返り」といった授業の流れにはこだわりました。振り返りの時間は十分に確保し、「実現可能」「妥当」「効果的」な内容で書かせ、発表させました。

事前の授業の資料の読み込みが大切な授業でした。限られた時間の中で資料を読み取らせて、自分の考えに繋げさせることが大変でした。資料から自分の意見に根拠を持たせたかったのですが、資料をあまり検討できずにいた生徒が出てしまいました。

